

梅窓院通信

お盆号

No.65
2013/06/01

青山



【左】善導寺の開山、聖光上人の木像が薬師堂から本堂へと御輿に乗せられ遷座される庭儀式。【中央上】仏教の五色の幕で飾られた三門から散華が庭儀式の行列に撒かれたところ。【右】御廟内に新たに建てられた大法要記念石塔。【中央下】法要後の記念撮影、左から中島真成住職、善導寺 台下、善導寺 執事長。

住職挨拶

梅窓院第二十五世 中島真成

皆さん、お変わりなくお過ごしでしょうか。昨年あたりから天候不順が当たり前のようになっていきます。どうぞ色々気を配られて、毎日元気に過ごして下さい。今号の表紙は大本山善導寺の法然上人八百年大遠忌をはじめとする大法要の様子です。善導寺は以前に梅窓院の団体参拝で訪れたことがありますので、ご記憶の方もいらっしゃるでしょう。

さて、写真中央下が私と善導寺 台下(中央)、執事長との記念写真です。後ろの本堂での国指定重要文化財大庫裏他六棟落慶法要を厳修した後で、台下も一息つかれての撮影になりました。

台下はもともと大分のご出身で、浄土宗では有名な先生の寺、浄土寺に入られました。先生は梅窓院の先々代と同時代の方で、厳しいので有名な先生。弟子に入られた当初の早朝からの掃除と勤行の思い出を聞かせて頂いたことがあります。

先生、そして 台下、そして今は当院の仏教講座の講師をお務め頂いている 上人が住職を勤められる浄土寺は赤坂ツツ木通りに面し、入り口に六地藏が並ぶお寺です。

その赤坂と青山は東京教区の中の同じ城西組になり、今回は同じ組ということで随喜のご縁を頂きました。随喜した三日目は日曜日で、多くの参拝の方がお見えになっていました。法要は江戸時代中期の建物を修理した落慶法要でした。

修理といえば、梅窓院も大規模修繕を行ないました。皆さまのご理解、ご協力のもと無事終わりました。ありがとうございます。

最後になりますが、本年は先代住職中島真哉上人の二十三回忌にあたります。寺院関係者中心の法要になるかと思いますが、この紙面を借りてお知らせ申し上げます。

精霊送りのせつなさ

新宿区 香蓮寺住職

勝崎 裕彦

お

盆は、日本人の培ってきた伝統文化の中でもっとも特筆されるべき行事習俗である。とくに亡き人へ思いを寄せ、心を寄せるお盆供養は、日本人の尊くゆかしい信仰習俗として受け継がれている。日本人の精神文化と生活文化の一つの結晶が、お盆にかかわり、お盆にまつわるもろもろに集約されているようである。

お盆供養には亡き精霊へ向けてのありがたさやなつかしさ、うるわしさが込められている。在りし日への感謝の思いや、時にあの日、あの時を思い返しての反省の心など、亡き精霊へ向けての各人各様の万感の祈りと願いが籠もっているのである。

とりわけ、新盆(にいぼん・しんぼん・あらぼん)・初盆の精霊への供養は、遺された家族にとつてはひとしおのものがある。かけがえのないのちを亡くしたかなしさ、せつなさ、むなしさはたまらないものである。故人が生活した部屋のそこかしこに、遺品の品々のどれにも、最愛の人のぬくもりが染み込んでいて、無念・残念、やるせない思いが募るばかりである

そうした精霊へ思いを込めて、遺された家族親族、知人友人が心から供養するのがお盆の信仰習俗の核心であ

る。盆中の期間、亡くなった精霊を心から迎えて、家族とともに生活してもらい、一緒に過すのである。

そして、やがてお盆行事も終わり、送り盆・しまい盆を迎える。また来年を約して、盆飾りや供養の品々を流し送る盆供流しとともに、今は亡き精霊をはるかに仏の国へと送るのである。

その一つのけじめ、区切りの象徴が魂送り・精霊送り・送り火の習俗である。迎え火に対して送り火については、有名な京都の大文字の送り火などの大掛かりなものもあるが、門前や戸口に香を手向け、家族とともに焚く苧殻火に、小さなのちの火を見つめ合う心はまことにうるわしい。

送り火や母がこころに幾仏 (虚子)

この句の心は、高浜虚子が御母上の心に遺った数々のなつかしい精霊をしつかりと受けとめていたことである。私も追体験して、亡くなった父や母の心の中にあつた多くの有縁の精霊へと思いを馳せたい。過ぎ去つた遠い時代を思い返して、ふるさとの多くの人々の在りしいのちを思いなつかしんでみると、そこにはまだ若かつた父や母と一緒にいた子供時代の自分の姿が見えるのである。

精霊送りには、流燈会とも称される精霊流し・燈籠流しが欠かせない。精霊舟・燈籠舟・送り舟・盆舟・麦殻舟を作つて、はるか浄土・仏国土へと今は亡き精霊を心から祈り送るのである。精霊送りには、人々のせつない心が交差して、日本人のゆかしい情趣の原風景がある。

流燈を美しと子ら追いゆけり (仁)

精霊舟草にかくるゝ舟路あり (吾亦紅)

千葉仁の句は、幼い子供たちの汚れない、邪心のない姿を写し取っている。米澤吾亦紅の句は、水辺の草かげに消え隠れる送り舟の行く末に思いを馳せている。いずれも亡き人の精霊へのかなしくもなつかしい思いの中からの作句である。

私も生まれ育つた田舎の小さな川原で燈籠舟を追いかけた思い出がある。そして、葦草に引つ掛かつた舟は、あれからどうなつたんだらうと、夜の寝床の中で、とても気になり、子供心に一生懸命に案じたことがある。今は亡き父母の在りし日の姿とともにうるわしく思い出される、私の送り盆の過ぎし日の一景でもある。

(大正大学学長)

平成25年春彼岸法要 3月20日(水)

三月・四月の

行事報告



増上寺御忌詠唱大会 4月4日(木)

はなまつり 4月5日(金)~8日(月)



左/寄席 法要 物産展 右/下

今年も19日、20日と物産展を開催致しました。

お盆

七月十三日(土)

盂蘭盆会法要 — 午前十時半 — 地下二階 祖師堂

御棚経

七月十三日～十六日

※新盆でご希望する方のみ

なお、棚経については同封の別紙「お盆について」をご覧ください。また、不明な点がありましたら梅窓院法務部へお問い合わせ下さい。

回向料のお申込み方法とお知らせ

◆盂蘭盆会 回向お申込み方法

回向紙 御回向料 …… 1枚 / 3,000円

- ・同封の回向紙にご記入の上、7月13日までに受付へお持ち下さい。
- ・一枚につき、一霊の御回向とさせていただきます。
- ・お導師さまの御回向は新盆の方のみとさせていただきます。

御塔婆 御回向料 …… 1本 / 7,000円

- ・御塔婆をご希望の方は、受付までご連絡下さい。
- ・御回向料は、同封の振込用紙で郵便局にてお支払頂くか、受付までお持ち下さい。(銀行・コンビニでのお支払いは出来ません。)
- ・御塔婆のお申込みは7月1日(月)までに受付にご連絡下さい。

お盆に寄せて

盂蘭盆は、サンスクリット語の「ウランバナ」(逆さ吊りの苦しみ)を漢字で音写した語で、転じて「盂蘭盆会」は「逆さ吊りの苦しみにあつて亡者を供養する法要」となります。この行事は今日、広く一般的に行なわれている行事ですが、この「盂蘭盆会」のよりどころとしている『盂蘭盆経』に説かれているのは次のような話です。

「安居(あんご)僧侶達が一定期間、一カ所に集まって集団で修行する事」の最中、神通力に長けた目連尊者が亡くなった母の姿を探すと、母は前世の悪業により、餓鬼道へ落ちてしまっていた。喉を枯らし飢えていたので、水や食べ物差し出したが、ことごとく口に入る直前に炎となつて、母親の口には入らなかつた。哀れに思い母を救おうと釈尊に教えを請うと、『苦しむ母を救うには、安居が終る7月15日に、安居明けの全ての僧侶に飲食百味を供養する事です。』と諭された。教えに従い供養を尽くしたところ、目連尊者の母は多くの僧侶の供養を受けて、その功德により救われた。『もし、後世の人々がこのように供養すれば、たとえ地獄にある者でも救われましようか。』と尋ねた目連尊者に釈尊は『もし孝順心をもって供養するならば必ずや救われるであろう』と答えられた」

梅窓院では、毎年7月13日の午前中に祖師堂にて「盂蘭盆会」が催されます。どうぞご家族皆様でお誘い合わせの上、7月13日には當院にご来寺下さい。そして亡き人を偲び、ともに先祖さまにお手を合わせてみてはいかがでしょうか。

(法務部)

元祖法然上人 八百年大遠忌法要

二祖聖光上人御生誕八百五十年・併修 開山忌 国指定重要文化財 大庫裏他六棟落慶

浄土宗の大本山のひとつ、福岡・久留米にある大本山善導寺で4月12日から5日間にわたって大きな法要が執り行なわれました。浄土宗を開かれた法然上人の八百年大遠忌、法然上人の直接の弟子で浄土宗の第2番目の祖師となる聖光上人の御生誕八百五十年の慶讃法要、そして国指定の重要文化財となった大庫裏を初め、江戸時代中期の姿に復原された伽藍の落慶法要です。

善導寺の住職である 台下は赤坂ツツ木通りにある浄土寺の御住職から善導寺の御法主にあがられました。浄土寺は梅窓院と同じ城西組で、住職もそのご縁で大法要に随喜されました。その法要の模様を特集します。



800年大遠忌に合わせ寄進された法然上人像。



聖光上人御廟内に新たに建立された800年大遠忌の記念石碑の開眼供養をされる 台下。



境内に建つ善導寺開山の聖光上人像。



法要が厳修される善導寺本堂。

平成23年に浄土宗の総大本山で行なわれる予定だった法然上人の八百年大遠忌法要は同年3月の東日本大震災により延期されました。そして多くの総大本山が翌年に行ないましたが、善導寺は当初より開山上人である浄土宗二祖聖光上人の御生誕八百五十年法要・併修開山忌法要、そして国の重要文化財に指定された大庫裏の落慶法要に合わせて今年の4月に八百年大遠忌法要を行なう予定でした。そして予定通り4月12日〜16日の5日間で三大法要が行なわれましたが、住職は大法要の3日目となる14日(日)に随喜しました。随喜とは喜んで法要に参列するという意味です。

当日は国指定重要文化財大庫裏他六棟落慶法要(左上別表参照)で、日曜日でもあり各地からの団体参拝者をはじめ、多くの参拝者で賑わいました。法話や布教に続いた庭儀式はお練り行列から始まりました。前日の庭儀式で本堂からお下りされた二祖聖光上人像が、参道の入口の向かいにある薬師堂から御輿と共に担ぎ出されました。雅楽の音が響きわたる中、僧侶

や稚児などと一緒には上人像がお練り行列に加わるのは善導寺ならではの、露天が立ち並ぶ長い長い参道を通ります。途中で何度か止められ、参拝者が上人像の下をくぐるものが許されず、上人像の下をくぐると無病息災などの功德を頂けるとあって、多くの参拝者が手を合わせてぐぐりました。

庭儀式に続いて、台下が二祖上人の御墓である御廟内に建立された大法要記念の石塔の開眼供養をされ、本堂へあがられました。

住職は、800名の参拝者で立錫の余地もない本堂で 台下をお迎えしました。厳肅な雰囲気の中、大法要が始まりました。緋色の衣の導師が3人並ばれる三導師の法要で、中央が 台下、左右導師は奈良と福岡のご上人が勤められました。また法要の途中では念仏を唱えながら御本尊を廻る笏(しやくわん)の仏具、行道は歩くこと、三匝(さんしゅう)が稚児さんと共に行なわれ、堂内は華やかな雰囲気になりました。ご回願、ご回向と続き、 台下のご垂示(御法話)がありました。10年かけての改修工事の間、毎月安全祈願式をしたこともあり無事工事が終わったこと、そして江戸中期の建物がよみがえり次の世代に継承できることのお喜びなどを話しされ、関係者への労いを頂き、善導寺がますます興隆することを祈念されました。

法要後にはご随喜された僧侶の方々との記念撮影がありました。撮影後に住職が 台下にご挨拶することができました。大本山善導寺は以前も本紙で特集、また 台下も梅窓院を囲む人々にご登場頂いています。今回もさらにご縁を深める大法要の随喜となりました。なお、5日間で、全国約250か寺からの団体参拝、そしておよそ1万人の方々が参拝されました。



左側の脇陣にて読経する中島住職。



三導師による落慶法要。中央が 台下。

行事・イベント案内

4月12日(金)

元祖法然上人800年大遠忌法要

■講演 「子守唄の大切さ」西館好子氏

4月13日(土)

二祖聖光上人御生誕850年法要・併修 開山忌法要

■講演 「母のちから」藤村志保氏

■庭儀式(お下り)

■和太鼓演奏(ちっこ赤坂太鼓のみなさん)

4月14日(日)

国指定重要文化財大庫裏他六棟落慶法要

■庭儀式(お上り)

■箏曲演奏(雅会 善導寺ことクラブ)

■フルート演奏(中西久美さん)

■音楽法要

4月15、16日(月、火)

■詠唱大会

4月12日～16日

■九州お念仏むすび

■スタンプラリー



九州の浄土宗寺院の本尊や仏像などの写真展も行なわれた。



功德をいただけるよう聖光上人像の下をくぐり抜ける参拝者。



庭儀式(お上り)で御輿に乗り薬師堂を出る聖光上人像。



三門をくぐり抜けた聖光上人像。



法要後の記念撮影。住職は前から4列目左から4番目。



随喜寺院が本堂正面より入堂する。紫色の衣の先頭は 台下の徒弟、赤坂の浄土寺 住職。

今号の囲む人々も梅窓院で学生時代を過ごされたご僧侶に登場頂けることになりました。佐賀県は鹿島にある鏡智院の住職です。

東京オリンピックが開催された昭和39年の4月に大正大学に入学され、昭和43年3月に卒業されましたが、この4年間、梅窓院で過ごされた時の思い出をお話頂きました。

◆本日はお忙しい中お時間を頂き、ありがとうございます。

住職(以下) いえいえ、遠いところからわざわざお越し頂いて、むしろ、こちらがお礼を言わなければ。御苦労さま。

◆さっそくですが、住職はオリンピックの年に梅窓院に入られたのですね。

そう、梅窓院にお世話になって半年後、後に体育の日となる10月10日がオリンピックの開会式。代々木公園の青空に五輪の模様が描かれたのをよく覚えていてね、梅窓院とオリンピックがワンセットだ。

◆当時の梅窓院住職は中島真哉上人ですね。

そう、たぶん一番賑やかな頃だったのじゃないかな。2名ずつ3部屋で6人の学生がいて、楽しい学生時代でした。

◆印象的な思い出はどんなことでしょう。

うーん、そりゃ若いからね、食べたり飲んだりというのが一番の思い出だね(笑)。

◆なるほど。

なにせ梅窓院は法事でたくさんお供えがあがったからね。

◆どんなものがお供えされたのでしょうか。

色々な物があがったけど、驚いたのはバナナだ。当時、バナナは珍品、貴重品なのに、そのバナナがこんな山積みになる!

真哉上人の許可がおりると、みんなで食べた食べた!

◆その頃から一日に5件も6件も法事があったと聞きますが……。

そう、休みの日は朝から晩まで法事があったのじゃないかな。

もちろん檀家さんも色々だけど、中にはこうしたバナナや虎屋の羊羹を持ってくる家もあったからね。お腹をすかせている学生には目の毒だったね(笑)。

一度、たぶんバナナの食べ過ぎでかな、夜中に目が冁えて眠れなかったこともあった。

◆貴重品だったのですね、バナナ。食事も皆さんたくさん食べられたのでしょうか。

朝も晩もよく食べたよ。

朝ご飯は掃除と勤行を済ませてからだから、もうお腹がすいて、食事を知らせる鐘が鳴るのが待ち遠しかった。

◆食事の合図に鐘が鳴ったのですね。

そう、鐘が鳴ると、みんな一目散に集まった。

晩ご飯を知らせる鐘も待ち遠しかった。それで晩ご飯もしっかり食べるけれど、それでも夜中に腹が減って目が覚める(笑)。そうすると、こっそり食堂に忍び込んで、翌朝分のご飯を食べちゃう。

そうした学生のことを真哉上人は、「昨日の夜も頭の黒いネズミがチョコチョコしていたな」なんて言っていたけれど、怒ったりはしなかった。

◆なんだか大らかで自由な感じの寮生活が目につきます。

楽しい思い出だね。まあ、今も施餓鬼会に寄らせてもらっているのは、そういう懐かしさもある。



鏡智院の本堂の前で 住職と中島住職。

◆住職は大正大学では何を学ばれたのですか。

英米文学を勉強した。私が中学2年から高校3年までお世話になった師僧は長崎駅から近い寺町にある浄安寺の御住職で、英語の本を原書で読めるようになれ、って言われた。それにハワイの開教区へ行きたかったから、迷わず英米文学。

◆お坊さんになる勉強は……。

もちろん英語と一緒にちゃんと勉強した。

◆ハワイの開教区へは。

残念ながら行かれなかったが、卒業して英語の先生になった。

◆すぐお寺とかではなかったのですか。

そう、でも先生になって2年目に今の鏡智院への婚入りの話があって、昭和46年にはこっちに来た。

◆どんなお寺だったのですか。

すぐその道が鍋島藩の参勤交代の街道で、この辺りで一休みすることから、今安という地名になり、この寺の山号も今安山になったと聞いた。来た頃は葦ぶきの屋根で隙間風がよく通り抜けていた(笑)。

また、先代が保育園を鹿島市内で開園してね。まあ、農繁期の子守りが日曜学校になりその延長とは聞いている。

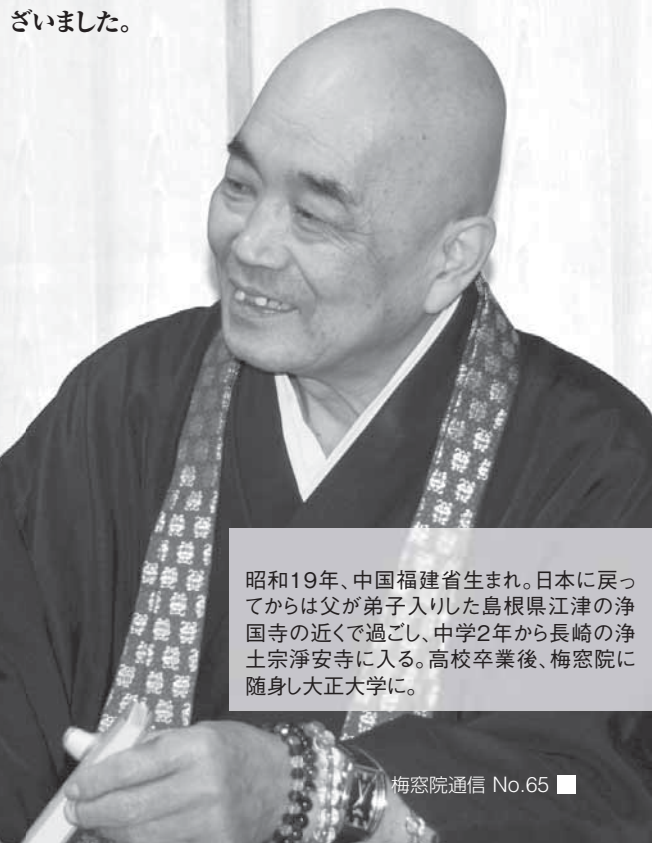
◆では、お寺と園長さんの二足のわらじですか。

そう、まあ、最近は少子化もあって少し園児は減ってきているけれど。

◆今年も梅窓院の施餓鬼会には来られますか。

もちろん。

◆では、今度は青山でお会いさせて下さい。ありがとうございました。



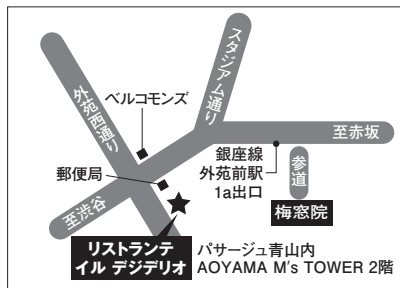
昭和19年、中国福建省生まれ。日本に戻ってからは父が弟子入りした島根県江津の浄国寺の近くで過ごし、中学2年から長崎の浄土宗浄安寺に入る。高校卒業後、梅窓院に随身し大正大学に。

Ristorante il desiderio

イタリアのトスカーナ地方で修行したシェフが織りなす料理は、伝統的なイタリア料理を守りつつも、日本の旬の食材を使うこだわりの皿ばかり。野菜はシェフ自ら畑に足を運び厳選、また、パスタは常時10種類以上置いてあり色々な形と食感を楽しめる。「女性により輝いて見える空間」というコンセプトのもと、店内は心地よい照明

に包まれ、所々に飾られた花が素敵なアクセントに。
ランチは1900円、また法要の後席におすすめの完全個室ランチも、6名以上12名までで二人3500円以上のランチで無料利用できますが、要予約です。
店名の「il desiderio」はイタリア語で「情熱」。シェフの熱い思いを、ぜひ南青山で。

il desiderio
Ristorante



営業時間/ランチ 11:30~15:30(L.O14:00)
ディナー 18:00~23:00(L.O 21:30)
定休日/月曜日(祝日、プライダル他、各種パーティーの貸切は除く) 席数/66席(個室3室)
住所/東京都港区南青山2-27-18
PASSAGE AOYAMA 2F
TEL/03-3470-1070 FAX/03-3470-1090

▶Piacere ピアチェレ ¥1900



▲落ち着いた雰囲気店内。

青山俳壇

選者「ウェブ俳句通信」編集長

大崎 紀夫

◎特選

○歯の治療予約の時間春時雨

◎入選

○やはらかき日は堂奥へ法然忌

○走る子や木の影あはく芝生春

○大寺の芽吹きし大樹見上げけり

○雲のごと咲いて辛夷の匂ひけり

○親猿の子を背に負ひてうらけし

○早咲きの桜あらかた散りにけり

○駅前空地三角花なづな

○蝶と蝶道の真中にすれちがひ

◎選者詠

○丈のびえてやつとぺんぺん草らしく

大崎 紀夫

〈ワンポイントアドバイス〉

俳句の初心者に限らずベテランでも、その表現には苦心しているものですが、余りに奇抜な表現には首をひねることがあります。近ごろ目にしたものは「風の表」「風の裏」などというのがあり、作者は得意然としていましたが、わたしはまるで分かりません。言葉は分かりやすく、そして新鮮な方がいいでしょう。また、「鳥舞う」「蝶舞う」などと安易に「舞う」を使うのも考えものでわたしは「鳥飛ぶ」「蝶飛ぶ」で十分だと思っています。

投句募集

今回は「夏の季語」でご自由にお詠み下さい。7月2日を締切り、9月発送の「秋彼岸号」にて発表致します。住所、氏名をお書き添えの上、ご応募下さい。尚、選者が添削し掲載する場合がございますのでご了承下さいませ。皆さまの投句をお待ちしております。
〒107-0062 港区南青山2-26-38
梅窓院「青山俳壇」投句募集係

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡下さい。
ウェブ編集室
電話03-5368-1870

第五十一回

食は命なり

食養研究家
武鈴子

夏バテを防ぐ「忍者食」

久しぶりに会った友人が「むくみには小豆やトウモロコシの毛がよく効くというけど、本当だわねえ」という。どうしたの? と聞くと、「仲間に誘われてメキシコに行ってきたけど、帰りの飛行機の中で足がむくみだし、帰宅してからも腫れがなかなか引かなかったの、小豆を煮て煮汁ごと食べたり、去年陰干しにしてとっておいたトウモロコシのヒゲを煎じて飲んだりしたら、3日ですっかり腫れが消えてしまったの。ビックリしちゃった。」という。私は、もうすぐ80歳になる友人が海外旅行をしてきたことにビックリ! 細身で一見弱々しそうに見える人なので海外へ旅行することなども無理では…と思っていた。しかし、それはとんでもない思い違いでした。

「何年も風邪もひかず、夏バテもしない」という彼女に健康の秘訣を尋ねると、『ゴマハニー』を食べ続けているからだという。それは、練りゴマに蜂蜜を加えて練り合わせたもので、毎日大さじ1杯をパンに塗ったり、お茶うけにして食べているとのこと。

中国では古代から『静神丸』と称して保健食にされてきたものです。修験者や忍者食のルーツでもあります。食物の機能を記した『本草書』には、これを1年連用すると体の虚弱が除かれ、2年続けると毛髪が伸びて白髪も黒くなり、3年続けると暑さ寒さに対する抵抗力が増強されると書かれています。

夏バテ防止にいかがでしょうか。



梅窓院会計報告について

昨年より会計報告は秋彼岸号に掲載させて頂いております。
つきましては9月上旬にお送りする秋彼岸号誌面をご覧ください。

行事予定

第59回 念仏と法話の会

6月12日(水)
12時半～(受付12時より開始)

開山忌法要・能楽奉納

6月8日(土)
法要 午後3時～ 本堂
能楽 午後4時～ 祖師堂

講座「安心できる私のエンディングについて」

6月22日(土)
午後3時～(開場2時半) 祖師堂

盂蘭盆会法要

7月13日(土)
午前10時半～ 祖師堂
※詳細は3面をご覧ください。

お檀家さんに
伺いました

平成25年
春彼岸法要にて

「家族10人でお参りにきました」

様
毎年春彼岸を
楽しみにして
おります。本日
は家族10人
でお参りにき
ました。

「楽しみにしております」

様
本日は姪も含め家族一緒にお参りにき
ましたが、なかなかこのような機会がな
いと家族揃って集まれないので春彼岸
会法要を楽しみにしております。今年
は桜も咲いていたので丁度お花見もでき
ました。

「気配りされた催し」

様
参詣に際し、郡上の名産品を購入出来
る物産展。心安らくお呈茶。そして、寄
席と法要。気配りの行き届いた催しに
感じ入っております。

発行／梅窓院
発行日／平成25年6月1日
発行人／中島 真成
編集／青山文化村
住所／〒107-0062
東京都港区南青山2-26-38
電話／03-3404-8447
FAX／03-3404-8436
ホームページ／<http://www.baisouin.or.jp/>
E-Mail／jodo@baisouin.or.jp
題字／中村康隆元浄土門主
総本山知恩院第八十六世門跡

平成25年度 前期 仏教講座のご案内

全講座▶午後6時～8時 受講料▶無料 場所▶祖師堂

講題／続・お経を読む

講師／阿川 正貫 先生(浄土寺住職 大正大学講師)
●第3回…9月12日(木)『阿弥陀経』③

講題／『知恩講私記』を読む

講師／新井 俊定 先生(天然寺住職)
●第2回…6月27日(木)『知恩講私記』を読む 一法然上人の五徳とは一
●第3回…8月 6日(火)『知恩講私記』を読む 一法然上人諸伝記とのかかわり一

講題／大乘仏教を読む

講師／勝崎 裕彦 先生(大正大学学長 香蓮寺住職)
●第1回…6月20日(木) 方便品第二の教え
●第2回…7月25日(木) 譬喩品第三の教え
●第3回…8月22日(木) 提婆達多品第十二の教え

講題／法然上人のみ教え 一『選択集』を読む一

講師／林田 康順 先生(大正大学教授、大本山増上寺布教師、慶岸寺副住職)
●第1回…6月17日(月)『選択集』第6章 一不滅の教え一
●第2回…7月 9日(火)『選択集』第7章① 一救いの光明一
●第3回…8月19日(月)『選択集』第7章② 一十二光一

講題／地域社会と真宗 一生活に生きる信仰と儀礼一

講師／本林 靖久 先生(真宗大谷派僧侶 大谷大学・佛教大学講師)
●第2回…7月5日(金) 寺院の開帳法会
●第3回…9月6日(金) 葬礼と墓上植樹

秋彼岸写真展開催

春彼岸号よりお伝えして参りました秋彼岸写真コンクールの
応募要項を同封致しました。是非皆様ご参加下さい。